2014年11月新刊

書院造と数寄屋考

鈴木　亘　著

本体価格　二二、〇〇〇円＋税　ISBN 978-4-8055-0728-5 C3052
B5判上製函入　本文三六八頁　図版六五点

寝殿造から書院造へ、そして江戸期に完成した数寄屋造へと日本住宅史における様式概念の発達史に様々な観点から検討を加え、書院造の淵源を中世禅院にまで遡って論及し、様式の発達過程とその特色を明らかにした労作。

戦後、太田博太郎博士は堀口説を継承し、日本住宅史を古代の寝殿造、近世の書院造の二大様式として捉え、中世住宅はその過渡的段階であるとした。（中略）

一方、近世住宅の研究を纏めた平井聖博士は、近世武家住宅の主要殿舎は大書院―小書院―御座間―居間・寝所で構成されていたこと、その形式が普及したのは江戸では明暦大火以後であることを明らかにされ、これを書院造の基本形と考えられている。そして、主殿を中心とする中世武家住宅の様式を主殿造と呼ぶことを改めて提唱された。

この両説に共通するのは、書院造は寝殿造が変化・発展して成立したとする考え方である。しかし、書院は中世禅宗寺院における奥向の書院に発祥し、寝殿及び主殿と建築の系統を異にすると考えられる。いうまでもなく、中世の武家住宅は、鎌倉時代から室町時代に中国から招来された禅宗とその建築の影響下に発達した。けれども、中世五山禅宗寺院における方丈および奥向書院の建築については、資料が少ないこともあって研究が遅れている。以上の観点から、書院造に関する従来の通説を批判的に検討し、書院造の基本形式とその発達過程を明らかにする。

（中略）堀口捨己博士は数寄屋造を日本住宅様式の一つとして定義された。けれども、現在、数寄屋造及び数寄屋風書院の定義は諸説があり一定しない。また、数寄屋の意味も曖昧であり、数寄屋風書院といわれる建築の特色及び発達過程も明確でない。これは日本住宅を考える上で大きな欠陥となっている。そこで、数寄屋造及び数寄屋風書院の様式について、従来の諸説を再検討し、数寄屋の意味を明らかにするとともに数寄屋風書院といわれる建築の形式とその発達過程を究明する。

近世初期に成立した書院造と数寄屋造及び数寄屋風書院の関係を批判的に再検討し、それらの発達過程と様式上の特色とを明らかにすることは日本の住宅文化を知る上で喫緊の課題である。

（本書　序より）

お取り扱いは

中央公論美術出版
〒104-0031　東京都中央区京橋 2-8-7
Tel: 03-3561-5993　Fax: 03-3561-5834

目次

序

前　編　室町時代後期の上層住宅における主要殿舎の構成

第一章　室町時代後期の武家住宅における主要殿舎の構成
　第一節　足利将軍邸
　第二節　細川管領邸及び典厩邸
　第三節　『三内口決』と『匠明』「東山殿屋敷ノ図」にみる殿舎構成

第二章　室町時代の住宅における押板と床及び床間
　第一節　押板と床及び床間
　第二節　足利義教の室町殿会所における床と床間

第三章　禅宗寺院における奥向書院の発達
　第一節　室町時代後期の相国寺方丈と奥向書院
　第二節　室町時代後期の相国寺鹿苑院本坊と奥向書院
　第三節　室町時代後期の相国寺雲頂院本坊と意足室（奥向書院）
　第四節　室町時代後期の相国寺雲頂院雲沢軒と松泉軒
　第五節　近世初期の禅宗寺院における塔頭の方丈と奥向書院

第四章　室町時代後期の立花伝書及び茶会記にみえる奥向書院
　第一節　立花伝書にみえる奥向書院
　第二節　茶会記にみえる奥向書院

後　編　書院造の基本形式と「数寄屋風書院」

第一章　近世初頭の武家住宅における主要殿舎の構成
　第一節　豊臣秀吉築造の大坂城本丸表御殿
　第二節　聚楽第
　第三節　『匠明』記載の当代「屋敷の図」と当代「広間ノ図」

第二章　近世初期の幕府関係居城における小広間（白書院）と黒書院の住宅様式
　第一節　伏見城本丸
　第二節　二条城二の丸及び本丸
　第三節　江戸城本丸及び西丸
　第四節　大坂城本丸
　第五節　幕府関係居城における小広間（白書院）と黒書院の住宅様式

第三章　書院造の基本形式とその特色
　第一節　大名屋敷における御成書院の系統と形式
　第二節　大名屋敷における大書院・小書院を中心とする殿舎構成の発達過程
　第三節　近世初期の公家住宅における書院（奥向書院）
　第四節　書院造の基本形式とその特色

第四章　数寄屋造と「数寄屋風書院」の形式
　第一節　数寄屋造に関する諸説
　第二節　数寄座敷と数寄屋の概念
　第三節　「数寄屋風書院」の形式と発達過程

後　記
本文索引

著者略歴

鈴木　亘（すずき　わたる）

1937年　横浜生
横浜国立大学工学部建築学科卒
株式会社　竹中工務店設計部
横浜国立大学工学部助手
文化学院講師
工学博士
現在　鎌倉市文化財専門委員

著書
『平安宮内裏の研究』（中央公論美術出版、1990年）

本書をおすすめする方

日本建築史・住宅史、禅宗寺院、茶室、大名屋敷、城郭、日本中世史・近世史、国文学を対象としている研究者、学芸員、学生、研究室、大学図書館、公共図書館。

関連書籍

【日本建築学会賞受賞】
平安時代貴族住宅の研究
飯淵康一 著　本体価格 35,000 円+税
B5判上製函入　本文632頁　挿図151点
ISBN 978-4-8055-0452-9 C3052

日本建築史論考
川上　貢 著　本体価格 17,000 円+税
B5 判上製函入　本文 386 頁　挿図 60 点
ISBN 978-4-8055-0361-4 C3052

続平安時代貴族住宅の研究
飯淵康一 著　本体価格 4,000 円+税
A5 判上製カバー装　本文 154 頁
ISBN 978-4-8055-0620-2 C3052

【建築史学会賞・紫式部学術賞受賞】
寝殿造の空間と儀式
川本重雄 著　本体価格 28,000 円+税
B5判上製函入　本文452頁　挿図102点　折込図3丁
ISBN 978-4-8055-0682-0 C3052